

「格好良い仕事に就きたくて」

躍進する 女性陣

第771回



小林運輸 浜田黎捺さん

に行く、そんな生活に憧れた。

長距離ドライバーとなるにあたり会社も移籍。「自分が乗りたいと思ったトラックの会社に行きたくて」。2

回断られるも熱意を伝え入社を許された。

時もあった。「泣きながらリフトを運転したこともある」と当時を振り返る。しかし、そんな厳しい修行時代も「今となってはすべて良い思い出」という。

支えたのは負けたくないという気持ちだった。応援してくれる家族や友人に格好悪い姿は見せたくないかった。

特に慕ってくれる妹に「格好良いお姉ちゃん」でいたい、そう思っていた。

結婚を機に生活の拠点を関東に移し、落ち着いて働くことができた。会社を探さず小林運輸と出会った。条件としていたのは毎日自宅に帰ることができ

たのは小林社長や所長の人柄だった。「この会社はちゃんとしているかも」。これまで出会ったことのないタイプの会社だった。

入社後も人の輪に支えられた。特に「お姉さん」と慕っている先輩女性社員は大きな存在だ。妊娠後も働き続けられるように親身になってくれた。

取材時は身重のため、トラックを下り、事務職として勤務中の浜田さんだが、出産後の現場復帰が楽しみで仕方がないという。「トラックは自分の居場所。会社にも迷惑をかけてしまったので恩返しをしたい」。次に目指すのは「格好良いお母ちゃん」と笑う。

「格好良い仕事に就きたくて」。小林運輸（小林誠社長、神奈川県平塚市）で大型フリーのドライバーとして活躍する浜田黎捺さんが運送業界に入った理由だ。

出身地大阪で最初の会社に入ったのは19歳の時。作業着姿に憧れた。2ト車からスタートし、2年後には4ト

にステップアップ。次に目標に定めたのは長距離の仕事だった。自分の好きなトラックに乗っているいろいろな場所

これまで複数の運送会社で経験を積んできたが、仕事がつづく、二度と運転者なんかやりたくないと思った

ること。決め手となっ

（田川侑史）